



2011. 5. 15
No.39



結
y u i

発行「憲法9条の会つくば」

〒305-0005

つくば市天久保 1-10-12 1-401

電話 090-3811-3753

Fax 029-857-6978



<http://peace.arrow.jp/tsukuba/>

～いわむらかずお絵本の丘美術館見学ツアー～



春風に誘われて



第1回平和とアートの旅

4月23日、待望の「絵本の丘美術館」見学の日です。“春風に誘われる”はずが、あいにくの雨に…でも車窓から遥かに見る山肌は、若葉と遅咲きの桜が霧雨で霞み、まるで日本画のよう。栃木地方の農家の庭の「大鯉のぼり」や、川をまたいで掛け渡された沢山の鯉のぼりには、子どもたちの歓声が上がりました。自己紹介、歌声、ブックトークなどで長い車中を楽しみながら、いよいよ美術館に到着。

お弁当は館内の一等地である、展望カフェテラスで頂きました。食後、それぞれ自由に館内の作品見学に。年代別に整理され、展示された作品群は鑑賞しやすかったです。最新作の野ウサギの兄妹の「ふうとはな」シリーズの紹介では、実際に美術館の庭に現れた野ウサギの赤ちゃんの写真も添えられていました。カワイイ～！ パステルで描かれた繊細な色彩の原画は、印刷されたものよりも淡い美しさです。作品を守るための、やや押さえた照明が落ち着いた雰囲気醸していました。

楽しかったいわむらさんとの交流

午後からは、いわむらさんご自身のお話と読み聞かせタイムです。震災と原発の話から始められ、特に原発事故については、小さい子どもたちの将来が大変心配だと話されました。また晴れていたら散策できた絵本の丘全体の説明では、生きることの基本である農場と共にある美術館であることを強調されていました。花や草木、ネズミや野ウサギ、ウシなどの絵本の世界がそのまま広がっているようでした。お話も読み聞かせも、とても静かな穏やかな声で語られ、お人柄が表れていました。お話に反応して、子どもたちが本当にうれしそうに声をたてて笑

うので、その素直さにも感動しました。

1時間ほどのお話でしたが、いわむらさんの世界にしっかりと浸ることができ満足でした。

参加者の皆さん満足の1日でした

参加者の感想では、「子どもや自然の生きものに注ぐまなざしの温かさが環境や平和への想いにつながると思った」「ご本人の温かさが絵のほんわかした感じにでている。心からのやさしさを持っているからこそああいう絵が描けるのだと思った」「20年近く行きたいと思っていたが、実現してうれしい。ネズミやウサギがいわむらさんご本人に似ている」「楽しい企画に感謝。地震や津波に直面して、『自然』とどう向き合うかを考えなくては、と思う。いわむらさんの作品からは自然と共存する生き方を感じる」「自分も楽しめる企画で平和について深く考えることができた。今後もこのような企画を期待する」など、書ききれないほどのご意見を頂きました。

今回の参加者は大人19人、子ども3人。震災その他の影響か、5人ほどキャンセルがあり財政的にはやや厳しくなりましたが、車内販売などで乗り切りました。

今回の企画にご協力頂いた皆様に感謝致します。次回も乞うご期待を！（穂積）



震災から見えてきた障害者への視点

松岡 功二（憲法9条の会つくば・世話人）

今回の震災では茨城県内の公立学校の96パーセントが損壊し、激震地である岩手、宮城、福島各県を上回ったそうだ。全国最低水準と言われる県の耐震化工事の遅れは以前から指摘されており、人災と言えよう。放置することは危険なので、つくば市内では春休みに緊急に応急工事を行って新学期に間に合わせたようだ。では、バリアフリー化工事も緊急に行うべきという発想はあっただろうか。

茨城県に限らず、多くの被災者が公立学校や公民館に避難したが、そこに障害者の姿は見られなかったと言われる。被災地に障害者がいないはずはない。私の知人はトイレが使えないからと諦めて自宅に戻った。慣れない環境でパニックを起こして周囲に迷惑をかけるのを恐れ、家族ぐるみ車内で暮らした人もいる。障害児が通うべきとされる養護学校は避難所として指定されておらず非常用物資の備蓄もなかった。地震前の1月に防災の学習会をしたが、障害者はそもそも自分たちが居られる避難所はないと悟っていた。周りも「家族や福祉関係者がなんとかしてくれるはず」「災害時だから仕方がない」と見て見ぬ振りをしていないか。初等教育の段階から分け隔てられてきた結果、普段街で障害者を見かけても何をどう手助けしたらよいか戸惑う人々が、災害時にこのような反応になるのは至極当然とも言える。「迷惑をかけてもよいと思ひ合える社会作り」とは震災前に開かれた雨宮処凛イベントの骨子だが、普段から顔が見えない関係でそれを求めるのは難しい。こうした危険は放置して構わないのだろうか。単に「障がい」と表記を替えただけでは変えられない障害者の現実が改めて浮き彫りになる。

応急や復旧ではなく復興が叫ばれている。ならば壊れた学校は障害児者も通えるように作り直すべきだろう。平時に使える施設こそ災害時に役立つし、普段から共生の仕組みを作ることが、防災や共助の近道である。

過去の戦争の空襲で「避難所」たる防空壕に逃げ込めるはずもない障害者やその家族の心情はどうだっただろう。彼らに向けられた住民の眼差しは如何？ いま、私たちはどれだけマシな社会を作ってきたのだろうか？ 自衛隊や米軍が出動したように、この国では災害と有事対応は共通との認識がますます広がることが危惧される。私達はそれに危機感を表明するとともに、防災はバリアフリーと手をつなぐものという認識を広げよう。法の下での平等を唱う日本国憲法第14条に「障害者」の文言はないが、憲法を掲げる私達の活動によって実現させていこう。

定例署名は毎月第1日曜日に 12:00～アルス前で、9の日署名は毎月9日に西武2F 広場前で行なっています。

「憲法9条の会つくば」の活動から

- ◆賛同人 2011年5月10日現在
総数 826名 (市内 613名)
- ◆9条署名 5月9日現在 10,327筆



定例署名で震災募金を訴える

4月の第一日曜日、震災後初めての定例署名行動では、被災者救援募金を併せて行ないました。肌寒い日和でアルス前の遊歩道の人影も少ない中、11名が参加して署名48筆、2005年以來の累計で1万筆を超える節目となりました。救援募金の11,805円は、東北地方被災者向けにつくば市社会福祉協議会に委託しました。なお、当会の募金活動に合わせて障害者団体の皆さんの被災地の障害者救援募金も行なわれました。（事務局）

メーデー集会にて

東日本大震災直後の今年の中央公園で開かれたメーデー集会は、例年になく多くの団体からアピール・決意表明がありました。当会の長田代表は決意表明の中で、「文科省は福島に、学校の校舎・校庭の利用判断における放射線量の目安として、年間20ミリシーベルトまで許容すると発表しました。これは、原発で働

く人が白血病を発症した際、労災認定を受けている線量に相当します。子どもの安全な生活と健全な育成を担うべき文科省なのに、福島の子どもたちを見捨てたのです」、2度目の被爆をした日本で「3度目の被爆による犠牲者を出してはならない」と訴えました。集会前の署名行動では248筆の署名が寄せられました。また、2011年憲法フェスティバル実行委員会の「憲法を力に！だまされない・あきらめない・生きさせろ」と震災復興と生存権保障を求めるアピールを集会参加者に配布しました。幸い天気も昼から回復して、谷田部農協と県南農協の産直野菜の販売所は好評であったようです。

中央メーデー集会とは別にこの日の午後、つくば市インフォメーションセンターで非正規労働者を中心に「茨城反貧困メーデーinつくば」の集会がありました。“震災後の今、どう生きよう？どう働こう？”をテーマに被災者との連携をアピールする4人の方のスピーチがありました。ここでも9条チラシと憲法フェスタチラシを配布して8名の方から署名が寄せられました。（武田、野崎）

昭和 19（1944）年、7歳の時、お父さん、お母さん、姉妹4人と従兄弟の7人で京都の満蒙開拓団の一員として満州に行きました。その時の体験はあまりにつらく、悲しいことだったので思い出したくも話したくもなかったのです。十何年かそういう気持ちでした。

しかし、憲法9条を書き換えようという動きが耳に入り、その9条とはどんなものか尋ねてみたら、「軍隊を持たない平和な国を目指す憲法だ」ということを知りました。またこれが変えられようとしているのを知り、そうならないよう、私の体験談を語らなければという気になったのです。9条を守る力を持たないと誰かに変えていかれる、私の恐れていることです。

私は昭和 12 年、京都に生まれ、昭和 19 年京都の開拓団に入り、日本、韓国、北朝鮮と進み、中国の吉林省で暮らし始めたのですが、猿が出、山には雪が1メートル以上も積もる、寒く恐ろしい所でした。その村には三つのグループが住んでいました。日本人が10 数軒、中国人、朝鮮人もそれくらいだったと思います。住まいはありました。子どもが大根をかじっていました。萱屋根で壁は泥で出来ていて、ひどいものでした。時々兵隊さんが馬車で山の中から2、3人でやっと運べるくらいの大木を運んでいました。馬が3頭、馬車が2台、はっきりと覚えています。九州の兵隊さんもいて、父は鹿児島出身だったので兵隊さんに声をかけ、お茶を飲み、おしゃべりをしたのを覚えています。行ったその夏、盆踊りをしました。

翌年（昭和 20 年）、従兄弟が召集されました。従兄弟から時々手紙が来ましたが、兵隊での生活が書かれていたのですが、6月になると所々黒い墨で消されていました。そのうち不思議に手紙が来なくなりました（お父さんが召集されなかったのは私たちの中の従兄弟が召集されたかたではないかと思えます）。従兄弟が召集された頃、村もおかしくなってきました。夜、いつもの静けさとは違っていたので大人たちが様子を見に行きました。終戦の直前だったと思います。

私たちの住んでいた所は山の中だったので情報がなかなか入ってきませんでした。9月に入ってからだと思えます。朝鮮人や中国人が棒や槍や銃を持って私たちの村を襲ってきました。皆逃げました。親たちは逃げ出したのですが、私は起こされても眠くて目を覚まさなかったらしいのです。外で騒いでいる声に起こされました。飛び出した私を親が見つけ、私を引っ張って隠れ家に引き入れてくれました。

綿入れの服も、たくさん入れていたお米も何もかも持って行かれました。私たちは3回襲われました。逃げて戻って、逃げて戻りました。今思い出して何より

残念なのは写真を1枚も持って来られなかったことです。日本が敗けたことを私は知りませんでした。大人は薄々知っていたかもしれませんが。私たちはソ連のチラシで日本が敗けたことを知りました。

2回目に逃げた時は、夜で、馬車に日本人のものを一杯のせて、かけ声をかけながら坂を登って行きました。3回目（午後2時頃）で家のものはほとんど無くなりました。お米入れも割られ拾うほどのお米も落ちていませんでした。いつ襲われるかわからないので、着の身着のままいつでも逃げられるようにしていました。

3回目に襲われた後、本部から連絡が入りました。夕方（4時頃）、日本に引き上げるという命令が出、一列並びで家族ごとに山道を歩いて本部に集まりました。若い男性はいませんでした。40代の人もしませんでした。本部に行く途中に襲われて、お父さんと他所の家のおじいちゃんが槍で殺されました。3番目の妹の信子が泣きながら帰ってきました。父が目の前で殺されたらしいのです。6、7人の男の大人たちが、木を燃やして明かりにして現場まで行ってくれました。心臓は動いていたが助けられず、髪を切って持ってきて、お母さんに「これがお父さんの証拠です」と言って手渡してくれたそうです。亡骸は穴を掘って埋めてくれたそうです。そうしなければ狼に食われてしまったらと思うます。

私は棒で殴られ、意識不明になってしまいました。そんな私を妊娠中のお母さんが「秀子しっかりしなさい」と何回も大声で声をかけながら、抱えて連れて行ってくれたそうです。冷たい井戸水につけた布で頭を冷やししながら。皆は「この子はもうダメだ」と言ったそうですが、お母さんは「死ぬまで諦めない」と言ったそうです。

中国人が日本人を恨んでいるということは理解できません。私たちは中国に行って、ボロでもすぐ家に住めましたが、その家は日本軍が中国人を追い出し、日本人のものとした所だったのです。畑も家も中国人のものすべて奪ったのです。私たちが中国に行ったばかりの頃、表面上は普通の付き合いをしてくれたように見えたのですが、日本軍が強かったからだろうと思いません。日本が敗けたと知るやいなや、元の土地や家を取り戻し、「日本人は出て行け」になったのです。戦争というものが国民に与えるいいことは何もありません。（次号に続く）

※種子島さんは昨年につくば不戦のつどいで満蒙開拓団と残留邦人の経験を話されました。本稿は「九条の会・ゆうき」臨時増刊号に掲載された戦争体験の講演をまとめたものを転載させて頂きました。



高木仁三郎をバイブルとして

大地震と共に津波に襲われ多くの生命・財産が一瞬の中に奪われた、その傷跡は、大いなる悲しみとともに文明史的な問を私たちに遺した。風景は戦後の焼け跡と重なり、私たちはこれからどうしたら良いのかと切実に迫る。復興の思いは、おおい重なる原子力発電所の重大事故で立ち往生している。私たちは歴史の変わり目に立たされ、人類としてどのような方向を示すのか問われている。

反原発運動に一生をかけてきた高木仁三郎は、ガン

に侵されながら病床で遺言のような2冊の本を遺す。一つは自分史を振り返りながら、戦後の政治と原子力・反原発運動への転換からの希望をつなぐ『市民科学者として生きる』（岩波新書 631）という本。もう一つは JCO 臨界事故を受けて、人間と技術について安全神話を考察する、死後発行となってしまった『原発事故はなぜくりかえすのか』（岩波新書 703）という本。後者の本は、緊急に岩波書店が重版したことで、手に入りやすくなった。この2冊は現在の状況の中で再読され復興のバイブルとすべきものとする。考える。（野口）

高木仁三郎：1938年～2000年

原子力資料情報室 1987～1998年まで代表を勤める

歌えば楽し♪ うたごえ喫茶に皆さん来てね

6月12日(日)に念願の歌声喫茶をします。詳しくは同封チラシを見て下さいね。

メーデー会場でプレ企画として「うたごえ広場」を開催しました。強風の中、参加者は多くありませんでしたが、堀部代表と佐藤せいごうさんのリードで、メーデー歌集を見て楽しく歌いました。メーデー会場でお知らせチラシも400枚ほど配りました。

歌が苦手、歌っても楽しくないという人はいませんか。そんな方はこの機会にぜひ、歌って楽しみながら憲法9条について考える「うたごえ喫茶」へ参加してみませんか。なお、会場のまつぼっくり保育園は駐車場はありますが、なるべく乗合で来ていただくと助かります。

(うたごえ喫茶担当 佐藤・池長)

行動予定

6月5日(日) 12:00～ 定例街頭署名の日
アルス前広場

9日(木) 11:00～ 9の日署名活動
西武デパート2F 外広場

17日(金) 19:00～ 事務局会議
松代交流センター

7月3日(日) 12:00～ 定例街頭署名の日
アルス前広場

9日(土) 11:00～ 9の日署名活動
西武デパート2F 外広場

17日(日) 10:00～ 定例世話人会
結40号発行 松代交流センター

インフォメーション

◇原発事故緊急学習会

日時：5月22日(日) 14:00～16:00

会場：つくば市桜総合体育館(市役所桜庁舎)

学習会テーマ：放射線から身を守るために

講師：野口邦和さん(日大専任講師、放射線防護学)

連絡先：筑波研究学園都市研究所・大学関係9条の会

TEL/Fax029-847-3884

◇基礎から学ぶ原発問題学習会

日時：5月22日(日) 14:00～

場所：いばらきコープ土浦店 2階コミュニティルーム

内容：「原発に代わる代替エネルギー」長坂慎一郎氏(前山形大教授)

主催：核戦争を防止し平和を求める茨城医療人の会

TEL029-823-7930 fax029-822-1341

◇「子どもの本・九条の会」3周年のつどい

日時：5月28日(土) 13:00～16:30(ロビー開場 12:00)

場所：国立オリンピック記念青少年センター 大ホール(千代田線「代々木公園駅」下車徒歩10分)

参加費：大人当日1200円 子ども500円

語り：岩崎京子、宮川ひろ

講演：「あの戦争の時私は子どもだった」まついのりこ
中川ひろたかと ON'S ライブ

ロビー開催：戦争と平和をめぐる子どもの本展(6月3日～6日 10:00～17:30 同所にて開催)

連絡先：TEL/Fax03-3417-6301(二宮)

◇テレジンを語る会いばらき

—アンジェ・ワイダ監督「コルチャック先生」上映会

日時：5月29日(日) 13:30～16:00

場所：つくば市市民活動センター

連絡先：TEL/Fax029-823-3484(関谷) 856-2286(長田)

◇「茎崎9条の会」設立5周年記念集会

日時：5月29日(日) 13:30～16:00

場所：茎崎市民交流センター(旧公民館) 2階研修室

総会：活動報告、財政報告、今後の活動方針の提案

講演会：「大逆事件を考える—処刑100執念にあたって」

正木健雄(日本体育大学名誉教授)

連絡先：TEL029-876-1545(野口久寿美)

◇九条の会講演会

日時：6月4日(土) 13:30 開場

場所：日比谷公会堂

参加費：前売り1000円、当日1500円

講演：大江健三郎、奥平康弘、澤地久枝、鶴見俊輔

申込：郵便局振替用紙で送金

口座番号 00180-9-611526 加入者名 九条の会

※通信欄に必ず「講演会入場券〇枚希望」と書く

締切り：5月26日(但し定員に達した時点で締め切る)

連絡先：九条の会 TEL103-3221-5075 Fax:03-3221-5076

◇9条の会つくば—うたごえ喫茶開催

日時：6月12日(日) 13:30～16:00

場所：まつぼっくり保育園(つくば市大角豆 2012-668)

連絡先：TEL/FAX029-851-9608(佐藤) TEL029-855-4448(池長)

◇つくば市母親大会

日時：6月26日(日) 10:00～

場所：ゆかりの森

分科会3つ(教育・自然観察・原発にかわるエネルギー)

全体会(アーサー・ピナード氏講演)

連絡先：実行委員会事務局 TEL/Fax029-852-4118